

事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成26年 1月22日 更新

事務事業名		高齢者教養講座事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連				
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会事務局	課長名	上原哲也
	施策	21	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	吉岡麻理沙
	基本事業	67	学習への参加機会の提供				所属班	生涯学習班	(内線)	1516
予算科目		会計一般	款10	項5	目3	事業連番10446	法令根拠	成果優先度評価結果 : ③ コスト削減優先度評価結果 : ⑪		
終了、開始年度		☐ 24年度で終了 ☐ 24年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)			

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	向学意欲のある高齢者に元気に学習していただくことで、生涯現役での社会参加を促進する。「高齢者教養講座」は、昭和48年高齢者の教養向上と社会参加をめざして、当初「高齢者大学」として開設された。人口の高齢化が進行しており、年々対象者数は増加しているものの、近年は高齢者の組織(老人クラブ等)加入率は伸びていない。まだ現役の方も多く、高齢者扱いされることに抵抗を感じる市民が増えており、参加者人数は減少傾向にある。
【業務の流れ】	5月から翌年3月まで月1回(合計11回)の月替わり学習会をヴィーブル文化会館で開催し、様々なテーマで高齢者に応じた生涯学習を講じている。年度末には、記念文集「駿馬」を編集発行している。
【主な予算費目】	報償費(講師謝礼)、需用費(印刷製本費)、使用料及び賃借料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	予算削減に伴い、他事業の動員要請のもとに行われている月が多く、もっと自主的な講座を増やして欲しいとの声がある。その一方で、参加者も減少していることから、旧西合志地域で行われていることぶき大学との部分的な共催も視野にいれるべきとの声もある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動)(DO)		25年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
平成24年5月に開講し、月1回の開催で計11回の講座を設け、25年3月で修了証を交付。出席回数が7回以上の方に修了証を交付する。内容は次のとおり。市長講話(開講式)、健康について(熊本機能病院理事長 6月)、社会を明るくする運動講話(熊本保護観察所長 7月)、高齢者の病気予防(高野病院 8月)、佐賀県 旧高取郡等見学旅行(9月)、文化協会民謡と三味線コンサート(10月)、ボランティア表彰(企画課 11月)、人権フェスティバル参加(人権啓発教育課 12月)、男女共同参画講演会参加(総務課 1月)、認知症予防について(高齢者支援課 2月)、世界遺産について(開講式)を実施。		ほぼ例年通り。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由	
→ ア 講座参加者数(延べ)	人		
→ イ			
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	(単位)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民(旧合志地域の60歳以上の高齢者)		→ ア 旧合志地域の60歳以上の人口(3月31日現在)	人
		→ イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
生涯生きがいを持って学習してもらう。		→ ア 講座参加者(延べ)	人
		→ イ	
* ③ 成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠			総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	22年度 実績(決算)	23年度 実績(決算)	24年度 目標(当初予算)	24年度 実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	26年度 予定	27年度 見込	28年度 見込
投 入 費 量	事業費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	110	111	117	111	117	117	117
	人件費	(A) 事業費計	千円	110	111	117	111	117	117	117
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
		正規職員従事人数	人	0	3	1	4	3	3	3
人 件 費	延べ業務時間		時間	0	120	70	235	120	120	120
	(B) 人件費計		千円	0	484	282	956	484	484	0
	トータルコスト(A)+(B)		千円	110	595	399	1,067	601	601	117

事務事業名	高齢者教養講座事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

※原則は24年度的事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 開催日が地区のサロン行事と重なったり、天候が悪かったりなどで、参加人数が減少したため。	☒ 達成しなかった ⇒【原因】
	②25年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☐ 目標達成見込みあり ⇒【理由】 年々講座登録者数が減少しており、参加者延べ人数も減少しているため。地区代表者への参加の呼びかけや、要望のある講座を開催する。	☒ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 老人クラブ等の組織に加入しない高齢者が増えており、講座参加者も固定化していく傾向にあるから。	☒ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 旧西合志町地域でも、高齢者を対象とした「ことぶき大学」が行なわれており、これとの部分的な共催が可能であると考えられるから。	☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 旧西合志町地域での「ことぶき大学」との部分的共催により、経費の削減が可能であると考えられるから。	☐ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 旧西合志町地域での「ことぶき大学」との部分的共催はできるものの、両講座は現状として残るため、人件費の削減は不可能であるから。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 市の予算も限られているため、受講生がより高度の学習を希望し、そのために講師を依頼する場合などは、会費を徴収することも必要と思われる。	☐ 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 毎回、開催通知の配布や出席名簿の管理など地区代表者をお願いしており、役割分担は適正である。	☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

今年度は講師側からの依頼（社会的要請）で行なった講座が多く、来年度では受講生の要望をもう少し取り込みたい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☒事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☒事業のやり方改善（効率性改善） ☒事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） ことぶき大学と連携を深めるようにする。				(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"> </td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
		コスト																										
		削減	維持	増加																								
成果	向上	○																										
	維持																											
	低下																											
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																												